

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25220915	研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
研究課題名	宇宙システムの高電圧化に向けた超小型衛星による帯電・放電現象の軌道上観測	研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在)	趙 孟佑 (九州工業大学・大学院工学研究院・教授)

【平成 28 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○ A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、小型衛星を自ら製作し、大型ロケットとのピギーバック（相乗り）などの打ち上げ機会を探索して宇宙進出を図り、衛星上での帯電放電現象の軌道データ取得を目指すものである。研究は順調に進展しており、平成 28 年 2 月 17 日に「鳳龍四号」の打ち上げに成功し、宇宙実験の緒に付いたところである。</p> <p>鳳龍四号の打ち上げの際、当初計画されていた複数の実験のうち、1つの実験に必要な機器の搭載を見送ることとなったが、これは H2A ロケットとのピギーバックに採択されたという好機に、宇宙進出するためのやむを得ない事情によるものであり、許容される計画変更と判断される。</p> <p>今後は、衛星の安定で安全な運用に努め、長期に渡り多くの宇宙データを取得し並行してデータ解析を行って、大いなる成果を収めることを期待する。成果公開・組織運営・研究費の使途に関しては妥当と判断する。</p>	